

雪まつりに行こう

「さっぽろ雪まつり」に代表されるように、北海道の各地や地域でも「雪」や「氷」をテーマとしたイベントが開催されます。このような地域行事に子どもたちが進んで参加できるような態度を育てるこども大切です。

また、イベントに参加する活動を単元に位置付けすることで、学習がより実感的なものになります。



ここが
ポイント

単元のどこに位置付けるかを考える！

「雪まつり」への参加を単元に位置付ける場合には、その目的を明確にしておくことが大切です。また、単元のどこに位置付けることが効果的かを考える必要があります。

《例1》

「雪まつり」
に参加する

体験を生かし自分たちの「スノーフェスティバル」を開く

《例2》

自分たちで
雪遊びを楽しむ

「雪まつり」
に参加する

遊びをパワー
アップする

あるある NG!

「雪まつり」に出かけることは、子どもにとって、とてもわくわくする活動です。だからこそ、目的意識をもたせると、子どもたちは一層生き生きと活動します。何となく参加していると、何をしたらよいか分からなくなったり、グループ活動がうまくいかなくなってしまったりするなど、教師がたくさん関わらなくてはならない状況も生まれてしまします。

ここが
ポイント

人とたくさん関わる！

雪まつりには、たくさんの人たちが参加したり、関わったりしています。

幼児、お年寄り、障がいのある方、外国人など、多様な人たちと会える場でもあります。人と関わることによって、単に「雪まつりが楽しい」という思いだけに留まらず、以下のように様々な気付きへと広がっていきます。

- (1) グループ活動での友達との関わりから、友達のよさに気付く。
- (2) 「雪まつり」を運営し、支えている人たちとの関わりから思いや願いに気付く。
- (3) 観光客との関わりから、「雪まつり」のよさに気付く。 など

場合によっては、意図的に人と関わり、インタビューなどをする活動を位置付けることもできます。

雪まつり会場まで出かける際に、バスや地下鉄などの公共交通機関を利用するすることは、子どもにとって貴重な体験となります。ここでも、交通機関を支える人たち、一緒に乗っているお客さんとの関わりも生まれます。

**Active**

冬の单元であり、学年の終わりに近付いてきています。そこで、これまでの活動体験を生かし、できる限り自分たちで活動を進められるようにしましょう。グループ活動を取り入れ、できるだけ子どもたちが活動時間の見通しをもったり、ルールを決めたりできるようにします。

その際には、教師が積極的に関わり、これまで学んできた探検活動を想起させたり、各グループのルール等を交流させたりすることも大切です。